



看護実践能力開発実習 I がスタートして

基礎看護学 瓜生浩子 教授

2022年度入学生より新たなカリキュラムとなり、2年次の臨地実習に「看護実践能力開発実習 I」が加わりました。この実習では、健康問題により何らかの症状が生じている患者に焦点を当て、事例の分析、臨床の看護実践場面の観察・分析等を行うことで、これまでに学修した解剖生理学等の医学的知識と看護の知識・技術を活用して、健康問題をもつ人の身体状態をアセスメントする力、身体状態を根拠に基づき説明する力、身体状態に合わせた看護援助を導く力を高めることを狙いとしています。4日間の実習のうち3日間は、学内で事例を用いて看護過程を展開します。学生は、何らかの症状がある患者1事例を担当し、症状のメカニズムや必要な観察項目などを整理した上で、シミュレーターを用いて身体観察と評価を実施します。さらに、日常生活にどのような影響が生じるかを検討し、それらを踏まえて必要な看護援助を考え、その一部を模擬患者に実施します。このように、情報収集→分析→実施→評価のプロセスを何度か踏むことで、学生は知識をもって考えることの必要性や、患者が必要とする援助を最適な方法で実施する難しさなどに気づいていました。

また、実習3日目には、病院で看護師が行う身体状態の観察や日常生活の援助を見学させていただき、患者に必要な看護を導くための看護師の思考過程を読み取って描き出し、自分なりに分析します。それを各自が看護師に発表し、助言や追加情報を得ることで理解を深めます。この看護師との意見交換は、何気ない看護援助の裏にある意図や意味を考えるだけでなく、看護を行う上で大切なことを教えていただく機会にもなっていました。

実習の終わりには、各自が学びの整理をして、今後に向けた課題の抽出と学習計画の立案を行います。全ての学生が自己の課題に気づき、看護師をロールモデルとして、卒業時に目指したい姿や今後強化すべきことを明確化することができていました。この実習での学びや気づきが、その後の学修につながることを期待しています。



# fure-fure



学生の活動

【バスハイクを企画して】

2回生 バスハイク企画委員

バスハイクを企画するにあたって、1回生同士の交流を深め、楽しんでもらうことを目的に2回生で企画を考えて取り組んでいきました。企画のために何度も話し合いをする中で2回生の間でも、仲を深めることができました。バスハイク当日、のいち動物公園は、県外出身の学生も多いため、初めて来たという1回生がほとんどで、動物をみながら、一回生同士で初めて関わる友達と楽しそうに話が弾んでいました。お弁当後のレクリエーションの時間には、みんな打ち解けて、盛り上がってくれていました。自分たちが考えた企画を楽しんでくれている様子を見られてすごくうれしかったです。大学では、他学年と交流することが少ないため、2回生にとっても貴重な経験で、バスハイクを通して1回生との交流ができて、自分たちも楽しむことができました。予算内での企画、お弁当の段取りなど、大変なこともありましたが、自分たちにとっていい経験になったと思います。



【健援隊】

3回生 健援隊

私たち健援隊は、高齢者や小児への健康推進活動を行っています。高齢者健康推進活動では、日々の血圧や体温を記録する健康チェック表の配布、季節ごとの健康知識を記載した柳瀬・神池便りの配布を行っています。昨年度は実際に柳瀬地区に訪問し、健康教室では、地域の方々に興味を持ってもらえるような工夫をし、血圧測定や応急処置のデモンストレーションを実施しました。小児健康推進活動では子どもたちが健康に関する知識を身につけることができるよう、「歯の健康」と「感染症対策」の発表を保育園にて行っています。準備では、小道具の制作や分かりやすい言葉の表現を探すなど工夫しながら行いました。また季節ごとの健康便りを作成し、園児に配布する活動も行いました。全体の取り組みでは、紅葉祭にてAED体験会を実施し、使い方の説明や体験をとおし、救急時の対処法の普及を行いました。参加者から成果について感想をいただくと、やりがいを感じます。今年度は1回生15名を迎え、これからも地域の方々とともに健康推進活動を進めていきたいと思っています。



[ニュースレターの名前の意味]fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp



高知県立大学 看護学部  
Faculty of Nursing University of Kochi



U.K.  
Faculty of Nursing  
University of Kochi

## ■ 学部生へのメッセージ



### 看護学部長 大川宣容 教授

令和6年4月から看護学部長となりました大川宣容（おおかわのりみ）と申します。看護学部の教育研究上の目的には、「創造」という言葉が2回出てきます。看護をつくる思考を育むことを大事にしてきた本学の歴史が刻まれていると感じます。この創造性は、変化の激しい時代を生きていく皆さんにこそ重要な能力です。

まず、人々の健康生活の創造は、対象を理解することなしには実現しません。また、看護は他者と関係性を築き実践します。実習において、対象とかかわることで関係性ができ、理解が深まるという経験をしてきた人も多いのではないのでしょうか。どんな状況にあっても看護職は、人々の健康生活の創造のために、視野を広げて、その人にとって真に必要なことを多職種と力を合わせて行います。私は、看護はとても創造的な仕事だと思います。

人々を理解するためには、人体、病気、薬剤、社会制度、看護に関する知識・・・、と非常に多くの知識、そして人間性を豊かにする共通教養教育科目での学修が必要です。学習のプロセスでは、聞き慣れない専門用語がたくさん出てきて、苦労している人も多いと思います。でも、知識を使って対象の健康課題を説明できると嬉しく、楽しくなります。自分の将来の姿と結びつけることで、学びのプロセスを楽しめる人もいるでしょう。さらに、他の人と意見を交わすことで、気づかなかった視点に気づくこともあるでしょう。時には意見がぶつかることもあるでしょう。どうしてよいか分からないこともあるでしょう。それでも、人々の健康生活の創造のためにできることを考え続けることで、新しい発想や価値が生まれます。この学びのプロセスが、皆さんの創造性を育みます。

創造性を高めるためには、日常の学びのプロセスを大事にすること、そして一人一人が自分の創造性をどう考えるかを意識して行動することが重要です。看護学部全体の創造性にも目を向け、そこから生まれる価値を大事に、未来に向かって看護学部の教育研究を考えていきたいと思っています。



## ■ 新任教員のご挨拶

### がん看護学 准教授 田代真理



2024年4月よりがん看護学領域に着任致しました。私は高知県の出身ですが、高知女子大学卒業後は大阪で急性期看護、大学院修了後は東京で在宅看護を経験し、この度、初めて高知の母校で働く機会を得ました。3月までは東京で暮らしていたため、言葉や交通事情、生活・職場環境など戸惑う部分もありますが、久しぶりの高知で色々な刺激を受け、脳トレができていく感があります。看護は病院だけでなく在宅や地域といった場で様々な患者さんと出会います。看護において無駄な経験はなく、患者さんと接していくうえでこれまでの経験は宝物になります。自身の経験が豊かなコミュニケーションにつながり、さらに患者さんとのかかわりを通して様々な学びを得て、看護の技が磨かれていくと思います。ぜひ大学生活で色々な経験をして、いろいろな価値観に触れてください。また生涯の仲間づくり、高知の自然の中での遊びなども楽しんでください。これまで私自身が経験してきた看護の魅力を少しでも皆様と共有できるよう頑張ります。

### 精神看護学 准教授 畠山卓也

4月1日より高知県立大学でお世話になっております。約10年ぶりに高知に戻り、いまは日々の生活に慣れること、そして一人ひとりの学生さんの名前と顔を覚えることに必死な毎日を送っております。

私の専門は精神看護学であり、精神看護専門看護師（日本看護協会認定）の一人です。皆さんの考える精神看護のイメージはどんな感じでしょうか？私は精神看護を「こころの影響を受けた身体や生活に着目し働きかけること」だと捉え、身体や生活から働きかけることを通してこころの健康の回復を促進することを大切にしてきました。こころの状態は身体や生活と密接に結びついています。例えば、気分の沈んでいるときは食欲もなくなり、体重減少をきたしてしまうこともあるでしょう。精神看護は、もちろん気分には着目しますが、気分の回復を手助けするというよりも、どうしたら食べられるだろうか、栄養状態を維持できるだろうかと考え、身体や生活から働きかけていきます。それが、ケアの対象となる人の安心と安全を守り、こころの健康の回復につながるのです。みなさんと共に精神看護について学び、そして皆さんとの対話から私も気づきを得られるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



## ■ 各学年の大学生生活



### 1回生 学年担当:瓜生・村川・田之頭



入学式から1カ月あまりが経ちました。ガイダンスでは少し緊張した面持ちの1回生でしたが、今では学内で楽しそうに過ごす姿があります。90分授業や学習管理システムにも慣れてきた様子ですが、その一方で、基礎科目の難しさや重要性に気づき、自分なりの学習方法を見出しながら知識を身につけているようです。また、サークル、立志社中、アルバイトなど学内外での課外活動を通して自身の知らない関心事に触れ、社会性を育てているようです。写真はバスハイクの光景です。動物の可愛らしさに癒され、リラックスした雰囲気の中で学生間交流をはかっていました。午後はゲームに参加し2回生とのつながりを深めると共に、企画してくれた2回生へ感謝の気持ちを伝えていました。

### 2回生 学年担当:高谷・岩崎・塩見



2回生は、「新入生の集い」を企画し、1回生と新任の先生方とともに「のいち動物公園」でのグループ散策や体育館でゲームなどを通して交流を図る企画・運営を行いました。企画した学生は、どうすれば参加者全員が楽しんでもらえるのか、雨天時の対応をどうしたらよいか、お昼をまたがる企画でありお弁当は何がいいのかなど話し合いを重ねて、運営する上で大事なチームワーク力を発揮しながら楽しい親睦会を開催することができました。

2回生になると、看護の専門性科目が増えてきています。授業では治療援助論・精神看護学総論など看護について学んでいます。また、1回生で学んだ「人体と構造」などの知識を活用して、救急時の対応や褥瘡のケア、注射など治療場面における基本的な援助技術に取り組む演習も行っています。これらの学びから患者の立場になって必要となる看護を考える力の強化も行っています。8月からいよいよ「看護基盤実習」が始まります。入院している患者さんを受け持たせていただき、今まで学んできた知識をもとに、一期一会のケアを学んでいきます。

### 3回生 学年担当:小澤・山中・源田

3回生は、これまでに修得した知識・技術を活かして小児、母性、高齢者、地域、急性期、慢性期、精神といった様々な対象・領域にあわせた看護について、より専門的な学習に取り組んでいます。これらの科目では、ロールプレイやグループディスカッションを繰り返して、様々な見方をする事で患者さんの価値観や生き方を理解し、その人に適した看護について考えを深めています。

6月からはいくつかの就職ガイダンス、8月には病院でのインターンシップがあります。また、看護師国家試験低学年模試を受けて今の実力を客観視し、1年半後の国家試験に向けた課題にそれぞれが取り組むように頑張っています。大学での講義や演習、実習に加えて、就職に向けた準備、国家試験対策を通して、これからの自身の将来やキャリアについて具体性をもち、自主的・主体的に考えて行動する力が学生一人一人に備わってきています。



### 4回生 学年担当:藤田・有田・竹中・徳岡

4回生は、最終学年として、授業、実習、卒業論文（看護研究）とたくさんの課題に取り組みながら、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を養っています。写真は「在宅看護援助論」で、自宅で暮らす療養者への看護を学んでいるところです。これまでの授業や実習で学んだ知識や技術を活かしながら、療養者さんやご家族の体験や生活を理解し、看護として必要なことを学んでいます。看護研究や総合看護実習では、それぞれが学びたいことを明確にし、主体的に学びを深めています。

そして、就職や進学に向けた試験が始まっています。自分の目指す看護はどのようなものか、看護観や将来像を見つめ、自分の言葉で説明できるようにまとめることも、看護職としての学びを深める機会になっています。国家試験に合格し、それぞれの夢に向かって進めるよう、自分の力を伸ばしています。

